

## 10 「原始仏教に学ぶ」

【全4回】／開催方法：オンライン

はっ とり いく ろう  
**服部 育郎**

中村元東方研究所  
専任研究員  
愛知学院大学講師  
東方学院講師



受講料 会員料金：¥9,000 早割価格：¥8,000(納入期限：9月4日)

### 【日程・時間】【全4回】

9月11日(金) 12:30~14:00 / 14:10~15:40

9月17日(木) 12:30~14:00 / 14:10~15:40

### ■受講に必要なもの

[テキスト] レジューメ配布

原始仏教とは仏教成立当時の初期の仏教をいう。やや具体的に言うなら、ゴータマ・ブッダが亡くなった後100年位まで、一つであった教団が二つに分裂するまでの仏教で、ブッダと弟子と孫弟子の頃までとも大まかに言えるだろう。

ゴータマ・ブッダは苦しみの克服を目指して、道を発見し実践した。そして同じように苦しむ人にその道を説いたのである。つまり、その道のみずから歩み追体験をするようにと教えるのである。

仏教成立当時であっても、現代であっても、人間の「四苦八苦」は同じように降りかかる。であるから、それを乗り越える道を説いたブッダの教えは、時代を超えて現代の私たちにも適応できるアドバイスとなるに違いない。今回の講座ではこうした観点から、原始仏典を資料に、テーマを設けて学んでみたい。

- 1、原始仏教の基本的立場。まず、原始仏教とは何か、また、その時代の仏教を知る資料（原始仏典）として何があるかを概説する。そして「ブッダ」という語が意味するところについて考える。
- 2、仏教の基本的な教え、苦しみと無常について。後には教えとして体系化して説かれることになるが、初期の仏典ではそれらが素朴なかたちで説かれている。原始仏典ではどのように説かれていたのかを、実際の経典の文句を読みながら学びたい。
- 3、原始仏典を資料に「自己の探求」と「無我（非我）の教え」について考える。これらは相互に矛盾するかのようであるが、この教えが実際にはどのように説かれていたのか、その意義は何であるかを考える。
- 4、欲望と煩惱について。苦しみの原因とされる欲望や煩惱について。人間は欲望をなくすことはできない。欲望があるから生きていけるという面もあるだろう。しかし、欲望は暴走しやすい。そうすると煩惱（煩わし悩ます心のはたらき）になる。その対処の仕方はどのように説かれているのだろうか。原始仏典の教えからこうした点を考えてみたい。

### 【参考書】

#### ①『ブッダ入門』

著者：中村元 出版社：春秋社 出版年：1991

#### ②『原始仏教の思想』 I、II（中村元選集 [決定版] 15,16）

著者：中村元 出版社：春秋社 出版年：1993